資料　2

国立感染症研究所感染症情報センターにおける
感染症情報の収集および提供

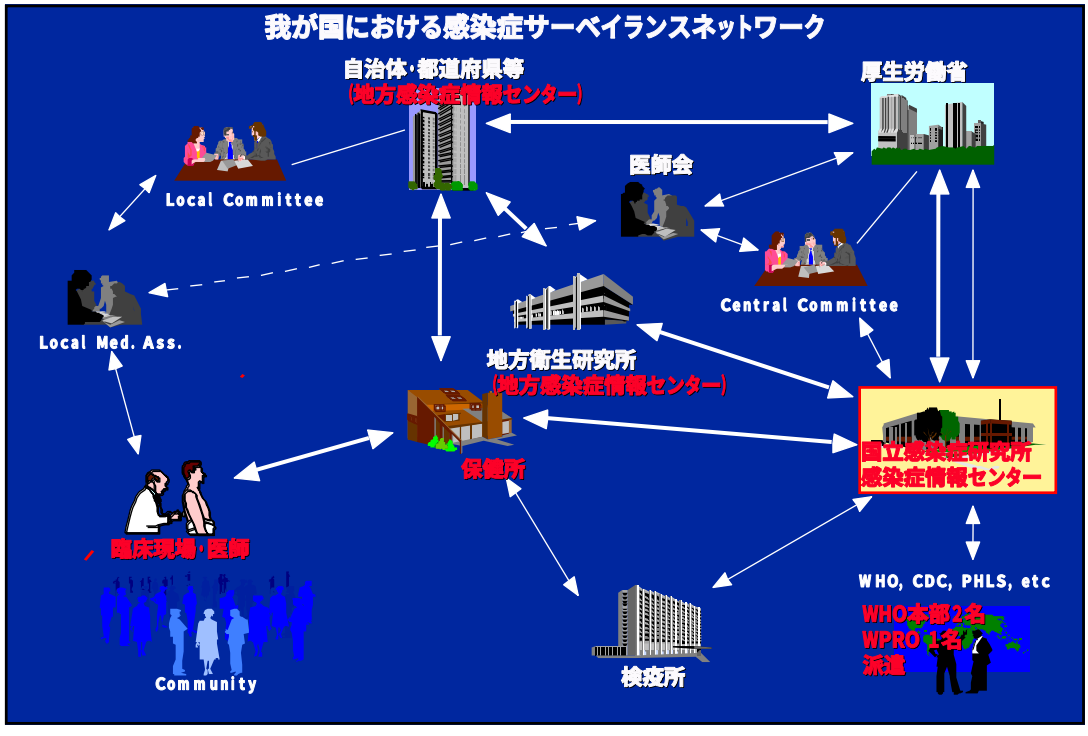
感染症サーベイランス

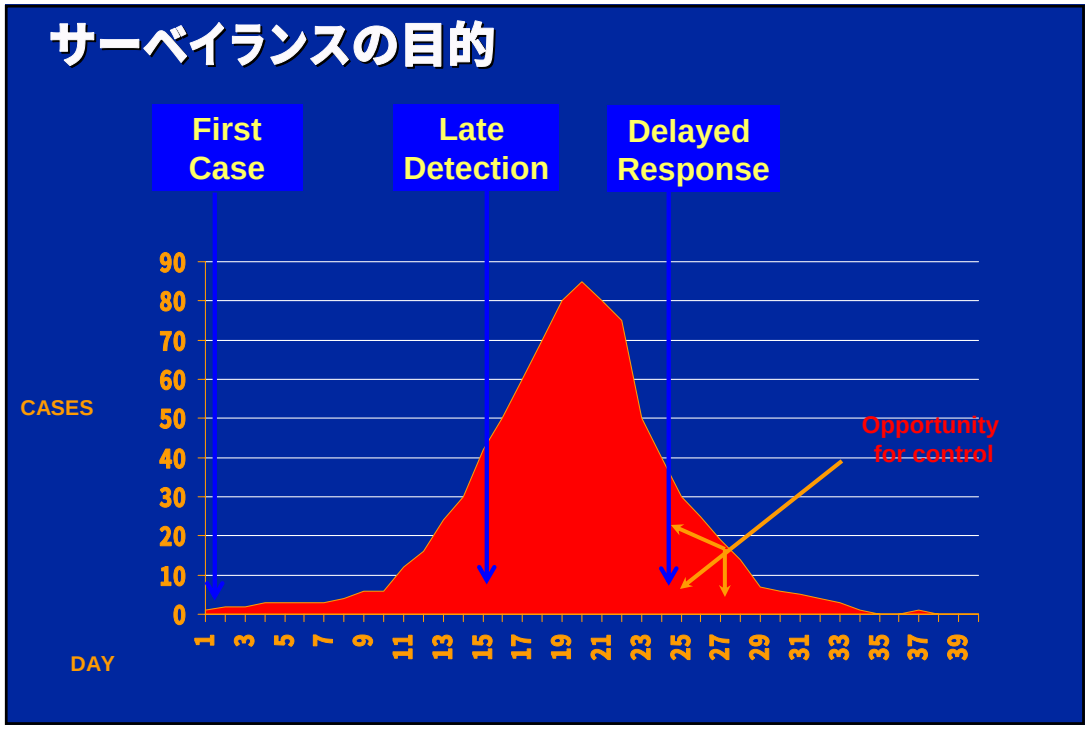
岡部信彦
国立感染症研究所感染症情報センター

内閣府食品安全委員会緊急時対応専門調査会
平成17年10月27日

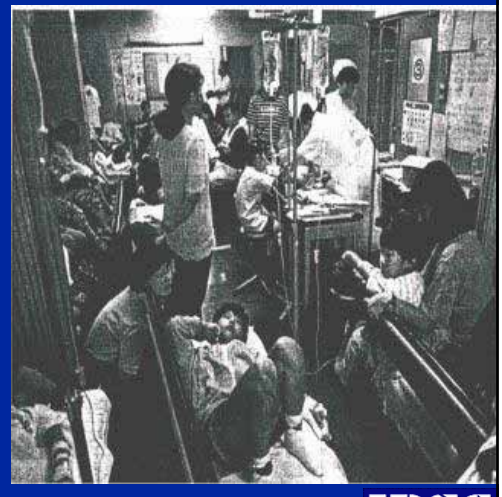
国立予防衛生研究所
→ 国立感染症研究所　1997-

- 目的: 感染症を制圧し、国民の保健･医療の向上を 図る
予防医学の立場から、広く感染症に関する研究を先導的･独創的かつ総 合的に行い、国の保健医療行政の科学的根拠を明らかにし、また、これを 支援する。
  - ･基礎研究
  - ･感染症のレファレンス
  - ･感染症サーベイランス
  - ･国家検定･検査
  - ･国際協力
  - ･研修

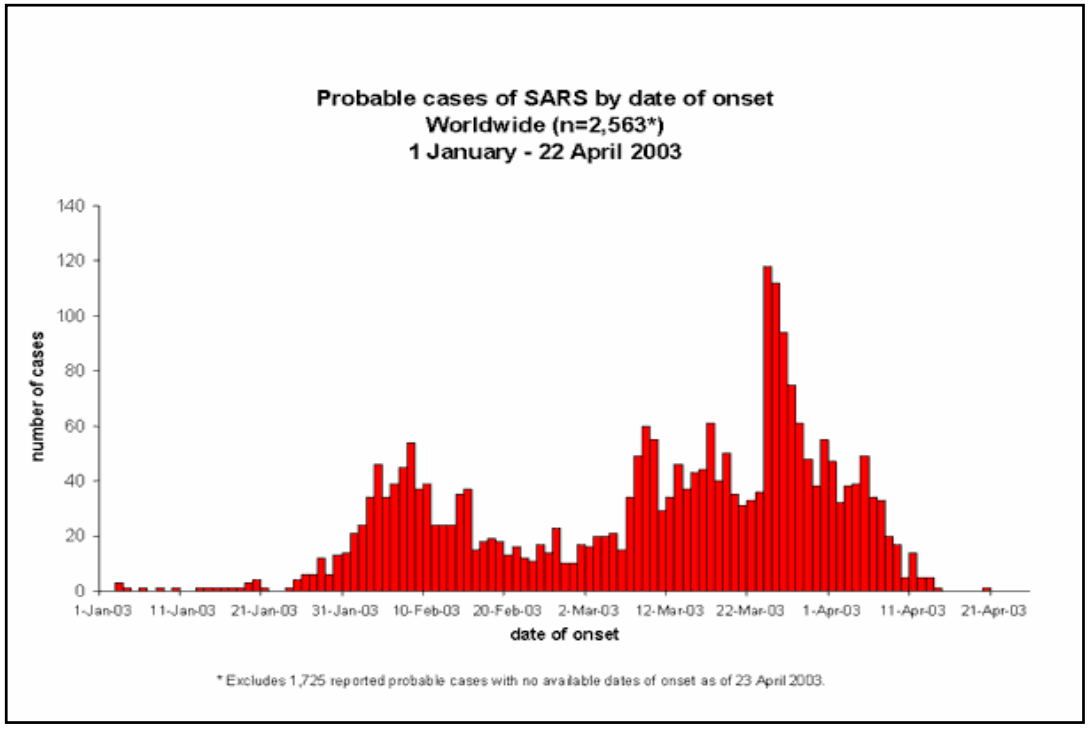

我が国における感染症サーベイランスネットワーク
自治体・都道府県等
(地方感染症情報センター)
厚生労働省
Local Committee
医師会
Central Committee
Local Med. Ass.
地方衛生研究所
(地方感染症情報センター)
保健所
国立感染症研究所
感染症情報センター
臨床現場・医師
Community
検疫所
WHO, CDC, PHLS, etc
WHO本部2名
WPRO 1名
派遣


サーベイランスの目的
First Case
Late Detection
Delayed Response
CASES
DAY
Opportunity for control
0
10
20
30
40
50
60
70
80
90
1
3
5
7
9
11
13
15
17
19
21
23
25
27
29
31
33
35
37
39

1996.7. 大阪堺市
患者数 9500
死亡数 3

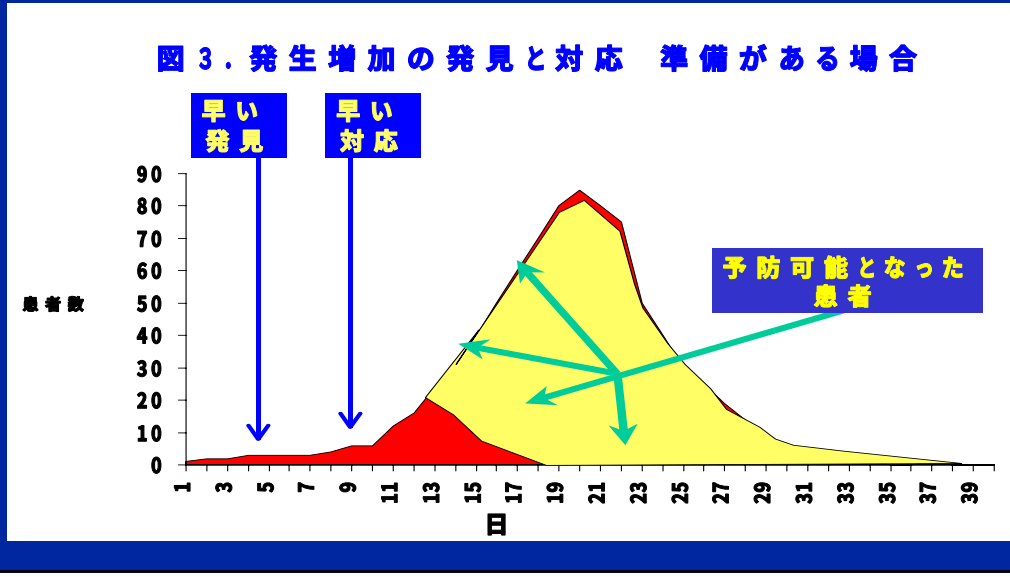


IDSC



サーベイランスの目的

Surveillance for Action !



感染症危機管理対策の基本

- ルールにのって淡々とサーベイランスを行う
- 感染症対策のため、常にサーベイランスの改善を考える
- そのための研究、調査、発表を行う
- これが感染症危機管理の第一歩である

サーベイランス

目的に応じた

- 定期的な情報の収集
- 定期的な情報の解析
- 定期的な情報の還元

サーベイランス

目的に応じた

- 定期的な情報の収集
- 定期的な情報の解析
- 定期的な情報の還元

- **情報の確認、意見交換、**
- **プライバシー保護**

感染症サーベイランス

- 疾病サーベイランス
  - 全数報告
  - 定点報告
- 病原体サーベイランス
- 血清疫学調査（感染症流行予測事業）

- 個人的な関係による内外の感染症情報

【一類感染症】　エボラ出血熱　クリミア・コンゴ出血熱　ペスト
マールブルグ病　ラッサ熱　痘瘡　SARS

【二類感染症】　急性灰白髄炎　コレラ　細菌性赤痢　ジフテリア
腸チフス　パラチフス

【三類感染症】　腸管出血性大腸炎

【四類感染症】　動物由来感染症
（ウエストナイル熱　ハンタウイルス、狂犬病
オウム病　つつが虫病・・・・）

【五類感染症】　全数把握疾患
定点把握疾患

4類感染症

ウエストナイル熱・エキノコックス症・黄熱・オウム病・回帰熱・ Q熱・
狂犬病・コクシジオイデス症・腎症候性出血熱・炭疽・つつが虫病・
デング熱・日本紅斑熱・日本脳炎・
ハンタウイルス肺症候群・ Bウイルス病・ブルセラ症・発疹チフス・
マラリア・ライム病・レジオネラ症

新規： E型肝炎、A型肝炎、高病原性鳥インフルエンザ、サル痘、
ニパウイルス感染症、野兎病、リッサウイルス感染症、
レプトスピラ症、ボツリヌス

5類感染症（全数把握）

アメーバ赤痢・急性ウイルス性肝炎（B、C）・クリプトスポリジウム・
CJD・劇症型溶連菌感染症・ HIV/AIDS・ジアルジア症・
髄膜炎菌性髄膜炎・ 先天性風疹症候群・尖圭コンジローマ、梅毒・
破傷風・ VRE感染症

新規：VRSA、急性脳炎

5類感染症（定点把握）

小児科定点（3000）: 麻疹・百日咳・A群溶連菌咽頭炎・
流行性耳下腺炎・風疹・水痘・感染性胃腸炎・
手足口病・伝染性紅斑・突発性発疹・咽頭結膜熱・
ヘルパンギーナ・RSウイルス感染症

インフルエンザ定点（児3000+内2000）: インフルエンザ

眼科定点（600）： 急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

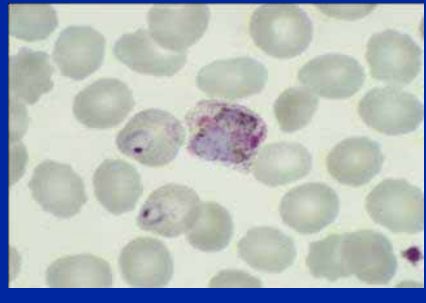
STD定点（900）： 性器クラミジア感染症・淋菌感染症・
性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローム

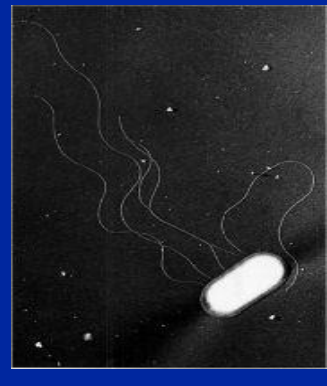
病院定点（500）：成人麻疹・細菌性髄膜炎・無菌性髄膜炎・
マイコプラスマ肺炎・MRSA感染症・
PRSP感染症・多剤耐性緑膿菌感染症

対象疾患の届け出
（感染症発生動向調査）

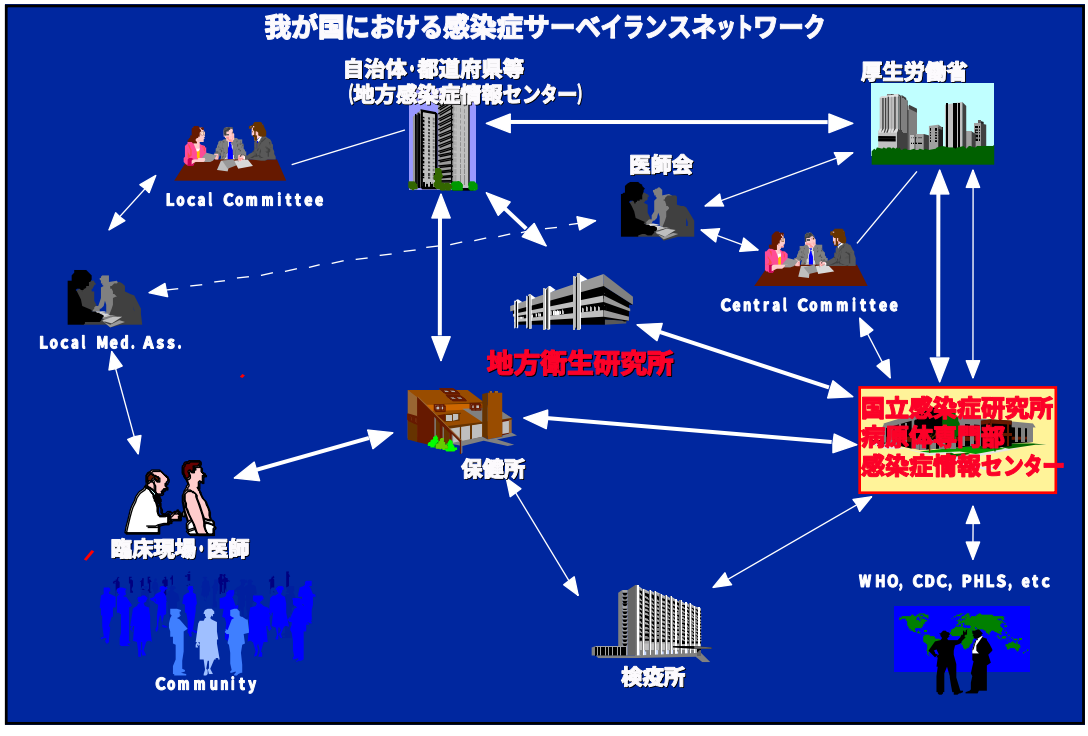
- **全数把握（1-4類感染症）**
  氏名、年齢、性別を含め、直ちに保健所長を経由して都道府県知事へ届ける
- **全数把握（5類感染症）**
  氏名などの個人情報を除外し、7日以内に保健所長を経由して都道府県知事へ届ける
- **定点把握疾患（5類感染症）**
  氏名などの個人情報を除外し、週（または月）単位に保健所長を経由して都道府県知事へ届ける

病原体（微生物）サーベイランス





血清疫学（血清抗体保有状況調査）



サーベイランス

目的に応じた

- 定期的な情報の収集
- 定期的な情報の解析
- 定期的な情報の還元

情報の送信　(プライバシーの保護)

- ホームページによる情報提供:
  IDSCホームページ、週報(IDWR)
  http://idsc.nih.go.jp/index-j.html

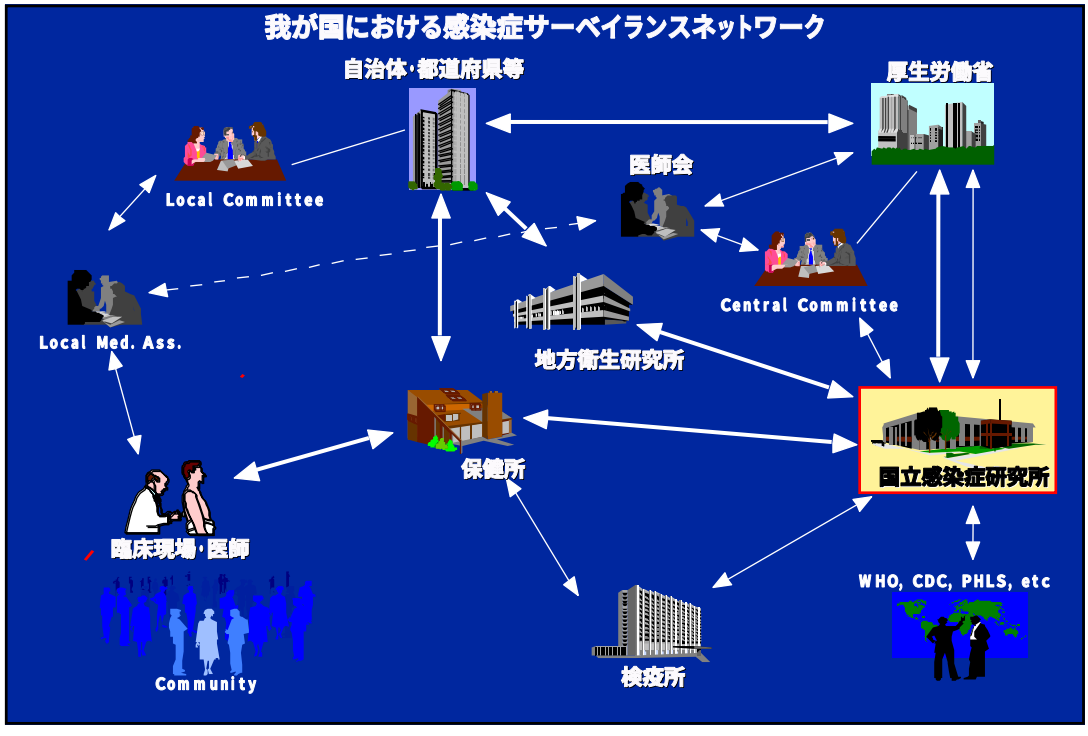
・印刷物、CDROM による情報提供

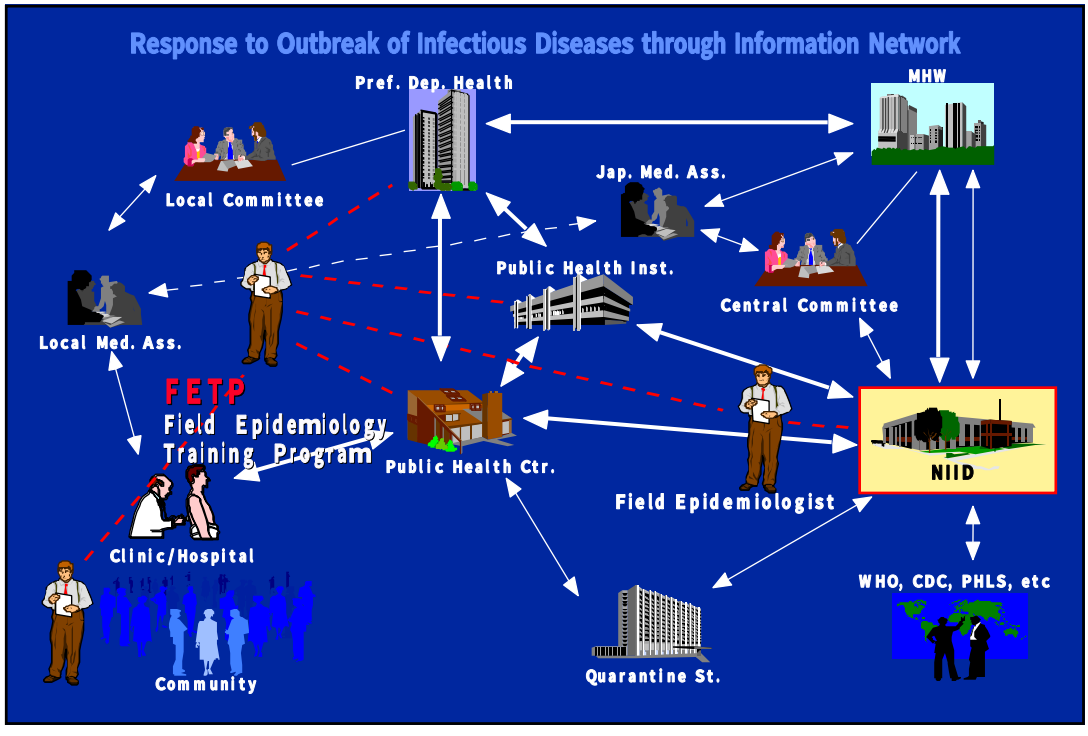
・個別の依頼に基づくデータ等の提供
  研究者、一般、メデイア等への提供

・メデイアとの定例勉強会 (月に1-2回)

Japanese: http://idsc.nih.go.jp/index-j.html
English: http://idsc.nih.go.jp/index.html

- ***サーベイランスなどにより得られた情報は、適切に、わかりやすく還元、情報提供を広くしていく必要がある。迅速性も求められる。***
- **誤った情報に基づくデマ、流言蜚語による被害は、直接の被害を上回る可能性がある。**
- **科学的立場にたった公平な情報公開と平易な説明が、健康危機対策として重要である。**


我が国における感染症サーベイランスネットワーク
自治体・都道府県等
厚生労働省
Local Committee
医師会
Central Committee
Local Med. Ass.
地方衛生研究所
保健所
国立感染症研究所
臨床現場・医師
WHO, CDC, PHLS, etc
Community
検疫所


Response to Outbreak of Infectious Diseases through Information Network
Pref. Dep. Health
MHW
Local Committee
Jap. Med. Ass.
Public Health Inst.
Central Committee
Local Med. Ass.
FETP
Field Epidemiology
Training Program
Public Health Ctr.
NIID
Field Epidemiologist
Clinic/Hospital
WHO, CDC, PHLS, etc
Community
Quarantine St.

サーベイランス

目的に応じた

- 定期的な情報の収集
- 定期的な情報の解析
- 定期的な情報の還元

- 受け身的サーベイランス
- 積極的サーベイランス

感染研・実地疫学専門家養成コース
Field Epidemiology Training Program (FETP)

2年間の on the job training
日常のサーベイランス監視
感染症発生への対応(outbreak response)
研究・教育・啓発

対象：医師・獣医師・臨床検査技師

今後、感染症対策に必要なこと

- 感染症専門家（基礎研究、疫学、臨床）の養成、配備
- 医学教育・医療機関における感染症教育の強化
- 医療機関、医育機関、研究機関、行政機関の連携・協力
- 国際連携（協力）の強化

- 広く一般に、感染症に関する理解をしてもらえるよう努める